

NPO 法人言語発達障害研究会 第 94 回定例会報告

日時： 2025 年 5 月 31 日（土）14:00—16:00

場所： オンライン（Zoom 配信）

第 94 回定例会は、言語発達障害児への支援に関する会員の発表を軸として、言語聴覚士、教員、保育士など 65 名の方々にご参加いただきました。発表の 2 題は、身ぶり記号の学習支援動画の活用に関するものと、絵記号絵本・イラスト教材を用いた臨床実践の紹介が行われ、実践的な工夫や教材の制作過程を詳細に学ぶ機会となりました。

第一題では、こやま耳鼻咽喉科クリニックの言語聴覚士・矢作満先生より、「臨床のためのちょっとした学習動画教材～保護者が身ぶり記号をわかりやすく学習するために～」と題した発表がありました。発表では、118 個の身ぶり記号を収録した動画教材の制作と限定公開、さらにその有効性を検証した多層ベースライン法による実験結果が報告されました。動画教材は書籍よりも効果的であり、保護者の学習意欲の向上にもつながったことが示されました。あわせて、言語聴覚療法を学ぶ学生や初学者の理解を深めるためにも動画が有効であること、近年の動画編集環境の進化が臨床での活用を後押ししていることが共有されました。

第二題では、国立障害者リハビリテーションセンター病院の言語聴覚士・平野千枝先生より、「ことばとコミュニケーションを楽しむための教材づくり～絵記号絵本『うさぎちゃん』と『言語聴覚士が作った思わず話したくなるイラスト BOOK、イラスト BOOK2』を活用して～」と題して発表いただきました。絵記号絵本は、情報の焦点化により子どもの興味を引き出し、相手との共同注意を促進する教材として位置づけられています。また、「思わず話したくなるイラスト BOOK」については、子どもが主体的に話したくなるような場面を意図して作られており、具体的な活用例のビデオとともに紹介されました。教材の背景にある工夫や思い、そして何より「ことばのやりとりを楽しむ」ことの大切さが、発表全体を通して強調されました。



<参加者の声>

- 保護者の方が気軽に学べる手段として、動画という発想がなかったです。
今回の勉強会に参加して動画編集が思ったよりも気軽にできることが分かったので、良かったです。
- 具体的なやり方を紹介してくださったので、今後自分でも動画教材づくりに挑戦できるかもしれないと思いました。
- 自分も子育て中で、すきま時間にスマホを見ることがあります、音声を出せない場面・イヤホンをすぐに使えない場面も多々あるので、身ぶりの解説が大きめの文字（字幕）で簡潔に表示されると音声オフでも学べて良さそうだと感じました。
- 絵記号絵本や、思わず話したくなるイラストブックは臨床の場面で使用しています。参考例も提示していただいたので、明日からの仕事で生かしていきたいと思います。
- 臨床の動画の具体例があり、とても参考になりました。
- 私の現役のころに欲しかった本です！個別指導や通園療育、健診担当の職員さんにも伝えたいと思いました。
- 動画やアナログ教材の良さ、どちらも臨床に欠かせない視点と感じました。